

【日本の大学】第 62 回——宇都宮大学：持続可能性や多文化共生図る

宇都宮大学は、関東地方北部の栃木県宇都宮市に本部を置く中堅の国立大学である。伝統のある教育や農業の分野など現在、五つの学部と 3 研究科のある大学院からなっている。

理念と方針について大学は、人類の福祉向上と平和に貢献することを理念とし、広く社会に開かれた大学として質の高い特色ある教育と研究を实践する、として以下のような基本的な方針を定めている。

- ・ 幅広く深い教養と実践的な専門性を身につけ、未来を切り開く人材を育成する
- ・ 持続可能な社会の形成を促す研究を中心に、高水準で特色のある研究を推進する
- ・ 地域社会のみならず広く国際社会に学び貢献する活動を積極的に展開する

——としており、学部や大学院での教育研究を通じて「持続可能性」や「多文化共生」を図っていくことを目指している。



おやまサテライトプラザ

以下、宇都宮大学のホームページなどから大学の歴史や現状をみていこう。

大学が発足したのは1949年5月、栃木師範学校、栃木青年師範学校と宇都宮農林専門学校を統合して新製の宇都宮大学としてスタートした。小中学校の教員養成課程からなる学芸学部と農学部の2学部だった。

学芸学部の淵源は明治時代初めの1873年の類似師範学校に始まる。校名は官立東京師範学校に類似する師範学校の意味と言われ、翌年には栃木師範学校となった。その後、栃木県師範学校となり、栃木県女子師範学校（1904年設立）と戦時中の1943年に合同して栃木師範学校となり、終戦を迎えた。栃木青年師範学校は、当時の学校制度にあった青年学校の教員を養成するために設けられたもので、1922年にできた栃木県実業補習学校教員養成所からの流れで、1944年に栃木青年師範学校となった。

以上の2校を一緒にして学芸学部となり、当初は小学校教員養成課程と中学校教員養成課程が置かれた。その後、附属中学校、附属幼稚園の設置（1951年）、学芸学部を教育学部に改称（1966年）、養護学校教員養成課程の設置（1968年）、大学院教育学研究科（修士課程）の新設（1984年）などの拡充・変更がなされた。

1999年には、教育学部を改組して、学校教育教員養成課程と、生涯教育課程、環境教育課程の3課程に改めた。生涯教育課程と環境教育課程はその後、総合人間形成過程となった後、2016年に新たに地域デザイン科学部が発足したことにより募集を停止し、吸収される形となった。



キャンパス風景

群馬大と協力、共同教育学部に

2020年4月には、隣県の群馬大学と共同で、教員養成機能を強化した共同教育学部として再スタートした。両大学の協力によって計画的な教員の配置をし、共通授業では、最新の双方向遠隔授業システムを活用して、映像と音声の双方向でのコミュニケーションによって、両大学の学生はリアルタイムで発言、質問、意見交換を行うことができるアクティブな教育環境を用意した。1クラス15名程度のクラス担任制を採用、学生と教員の距離が近い指導を実施している。現場体験・経験を重視した教職ボランティア入門、教育実習、教職実践演習を充実させている。「教育人間科学系」「人文社会系」「自然科学系」「芸術・生活・健康系」の4系に分けて募集し、入学後には専門分野に拠らない学年一括クラスを編成し、各クラスの学修指導教員が一貫して担任指導にあたる。

広範・多岐にわたる農学分野

農学部の歴史は、1922年の宇都宮高等農林学校の発足が起源である。1944年に宇都宮農林専門学校と改称され、1949年の宇都宮大学農学部へとつながった。農学科、林学科、農業経済学科、畜産学科、農業工学科、農芸化学科の6学科で発足した。

その後、大学院農学研究科（修士課程）の設置（1966年）、東京農工大学を基幹大学として茨城、宇都宮大学を参加大学とする東京農工大学大学院連合農学研究科（博士課程）の発足（1985年）や、学部では1991年に組織改組が行われ、生物生産科学科、農業環境工学科、農業経済学科、森林科学科の4学科、10大講座、2付属施設となった。農学部の付属施設だった雑草防除研究施設は雑草科学研究センターとして学内共同教育研究施設となった。



雑草管理教育研究センター

農学部は理念として、十分かつ安全な食料の供給、生物自然の利活用、快適な環境の提供、生命の理解と人間の健康保持への寄与、を掲げる。使命としては、持続的・生物生産、環境の保全と修復、生命科学の発展と応用を共通の目標に置いた教育・研究を通して、地域社会並びに国際社会に貢献することのできる人材を養成する、としている。

現在、学部は生物資源科学科、応用生命化学科、農業環境工学科、農業経済学科、森林科学科の5学科。付属施設としては附属農場、附属演習林、雑草管理教育研究センター、バイオサイエンス教育研究センターを抱えている。



バイオサイエンス教育研究センター

現在は、以上の共同教育学部、農学部のほか、地域デザイン科学部、国際学部、工学部の体制となっている。

工学部は1964年に宇都宮工業短期大学を吸収して発足、機械工学科、電気工学科、工業化学科の3学科でスタートした。その後、精密工学科（1968年）、電子工学科（1971年）、大学院研究科修士課程（1973年）、環境化学科（1974年）、情報工学科（1976年）、建築工学科（1978年）、土木工学科（1982年）などが次々に設置された。

1988年にはこれらを改組して、5学科（機械システム工学科、電気電子工学科、応用化学科、建築学科、情報工学科）に再編された。1992年には博士の前・後期課程も置かれている。更に2016年に建築学科が廃止されて4学科となった後、2019年には4学科をまとめて基盤工学科の1学科体制とし、その下に「物質環境化学」「機械システム工学」「情報電子オプティクス」の3コースを設けた。1年次には全員が基礎教育タームに所属し、技術・研究者に必要な基礎知識を広く学ぶ。2年次からは上記のいずれかのコースに所属して専門性を深める。データサイエンス教育、特色である光工学教育、デザイン力（問題発見・解決力）教育、分野横断的教育を組み合わせ、専門的視点だけではなく、関連分野を複合的に捉える俯瞰的視点や異分野コミュニケーション能力を合わせ持つ人材を育成する。



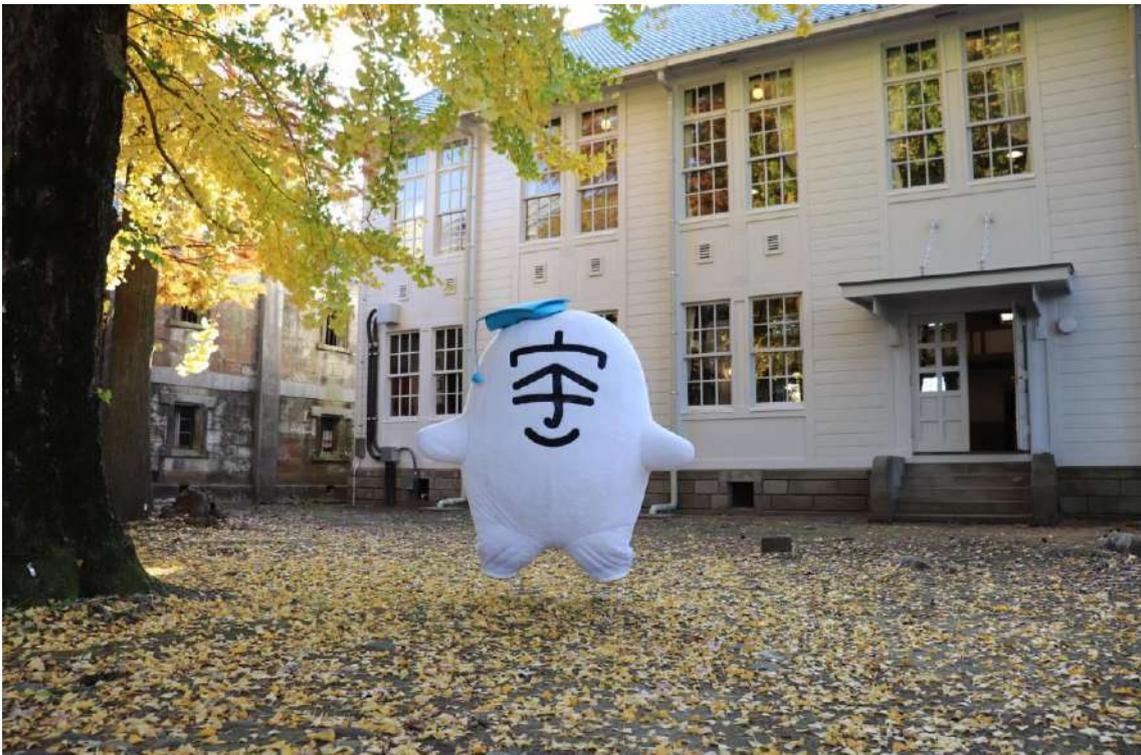
クルメツツジが美しいフランス式庭園。フランス式庭園は、農学部的前身である宇都宮高等農林学校の開校（1923（大正12）年）に際し、教職員が設計し、学生や地域の青年団の方々のご協力により1926（大正15）年の秋、完成した歴史ある庭園である。

国際と地域に力点

国際学部が発足したのは1994年である。国際社会学科と国際文化学科の2学科でスタートした。2017年度からは国際学科1学科構成で再スタートしている。「多文化共生」をキーワードに、世界のさまざまな地域の国際的な分野で活躍するために、多文化共生に関する専門的な知識・技術に加えてチャレンジ精神や行動力などを兼ね備えた「グローバルな実践力」を持った人材を育成する。少人数演習や海外経験学習、国際キャリア教育、外国語教育を重要視しながら、基盤教育科目と専門科目を履修する。

地域デザイン科学部が新設されたのは2016年である。地域の持続的な発展に関する教育・研究・地域貢献を推進することによって、豊かな生活の実現を目指す。地域の資源や特性を活かしながら多くの新しい課題を解決し、21世紀の地域社会を持続可能で豊かにするために必要な教育・研究・地域貢献に取り組む。受け身で知識を得るだけでなく、学生自身が考えて地域をデザインする力を養えるように、アクティブラーニングを豊富に導入している。「コミュニティデザイン学科」「建築都市デザイン学科」「社会基盤デザイン学科」の3学科で構成されている。

大学では現在、海外の 23 の国・地域の 51 の大学と大学間または部局間の交流協定を締結している。国際学部では独自に 14 の大学と学部間交流協定を結んでいる。このうち 41 の大学とは、学生交流に関する協定を結び、短期留学推進制度によって、交流協定校へ留学生を送り出すとともに留学生を受け入れている。海外からの留学生に対しては、専門教育教員の配置、指導教員やチューター制度、日本語教育の実施、実地見学旅行などを行っている。学習奨励費などの奨学金支給制度を設けるとともに、外国人留学生や外国人研究者の居住のためや教育研究上の国際交流に寄与することを目的に国際交流会館も設置している。



大学のキャラクター宇～太

キャンパスは、峰キャンパスと陽東キャンパスがある。峰キャンパスに本部があり、国際学部、共同教育学部、農学部の学生が、陽東キャンパスは、工学部、地域デザイン科学部の学生が学んでいる。

学生数は、学部が 4017 名（うち女性 1580 名）、大学院は 918 名（うち女性 239 名）である。教員数は、326 名である。（いずれも 2021 年 5 月現在）

学長は池田幸氏である。東京大学工学部工業化学科卒、東京工業大学で工学博士の学位を取得、東京工業大学工学部助手、広島大学工学部助教授、2002 年から宇都宮大学工学部教

授。国立大学法人宇都宮大学理事・副学長を経て、2021年4月から学長。

日文：滝川 進

写真：宇都宮大学 HP&FaceBook